



IWATE BANK NEWS LETTER



2021年2月22日

株式会社岩手銀行
株式会社北日本銀行

第18回「リエゾン-I 研究開発事業化育成資金」の贈呈について ～「いわて産学連携推進協議会（リエゾン-I）」の取組み～

岩手銀行（頭取 田口幸雄）、北日本銀行（頭取 石塚恭路）では、両行が参画する「いわて産学連携推進協議会（リエゾン-I）」のおもな活動として取り組んでいる「研究開発事業化育成資金」贈呈事業において、18回目となる今年度の贈呈先を決定しましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 今年度の贈呈先について

(1) 贈呈先企業

今年度は、8社に対し合わせて1,150万円の贈呈を行いました。

企業名	代表者	共同研究機関	贈呈金額
㈱重次郎	中屋敷 敏晃	農研機構東北農業研究センター	200万円
㈱宮古マランツ	長崎 一幸	国立大学法人 岩手大学	150万円
アイエスエス㈱	鎌田 智也	地方独立行政法人 岩手県工業技術センター	150万円
吉川化成㈱	吉川 秀朗	国立大学法人 岩手大学	150万円
㈱岩手くずまきワイン	鈴木 重男	地方独立行政法人 岩手県工業技術センター	150万円
㈱釜石電機製作所	佐藤 一彦	地方独立行政法人 岩手県工業技術センター	150万円
㈱アサヒテクノ	高橋 茂吉	岩手県林業技術センター	100万円
㈱岩手エッグデリカ	田村 昌則	国立大学法人 岩手大学	100万円

※ 贈呈対象となった具体的な事業計画等詳細は、別紙『第18回リエゾン-I 研究開発事業化育成資金』贈呈先一覧のとおり

(2) 現在までの贈呈実績

第1回から第18回までの贈呈件数金額は、延べ124件1億6,950万円となりました。

(3) 贈呈式の開催

2021年2月22日（月）に岩手大学構内（コラボMIU）で開催され、金融機関を代表して岩手銀行田口頭取より8社の代表者に認定証の授与および目録の贈呈を行いました。

2. 「いわて産学連携推進協議会（リエゾン-I）」について

(1) 大学等の研究シーズ（新たな技術等）と企業の技術・製品開発等のニーズをマッチングさせることにより新事業の創出を図ることを目的に平成16年5月に設立し、現在、3金融機関と10研究機関が参画しています。

(2) 「リエゾン-I マッチングフェア」の開催、岩手銀行と北日本銀行による「リエゾン-I 研究開発事業化育成資金」の贈呈等を主な活動としています。





3. 「リエゾン－Ⅰ 研究開発事業化育成資金」の贈呈について

(1) 創設目的

- ① 企業等が有する技術開発・商品開発のニーズと大学等が有する高度な技術研究成果とを共同研究等を通じてマッチングさせることにより、中小企業の「高付加価値」を通じて「事業の多角化」や「新たなビジネス創出」を積極的に支援するものです。
- ② また、この育成資金を呼び水として、企業等が大学等にある「事業の芽」「技術の種」の事業化に向けた研究開発に積極的に取組むことを期待するものです。

(2) 対象先

- ① 「リエゾン－Ⅰ」に参加している研究機関との共同研究により新たな事業化を目指している企業等で、企業等の所在地域は、岩手県、青森県、秋田県、宮城県とします。
- ② なお、地域の中小企業支援の観点から、証券取引所上場会社およびそのグループ企業等は、原則として応募できません。
- ③ すでに受賞したことがある企業は原則として申請できませんが、つぎの条件を満たす場合のみ対象とします。
 - a 過去に受賞した事業計画の内容と重複していないこと
 - b 過去に受賞した事業がすべて事業化されていること

(3) 贈呈金額

- ① 年間贈呈額1, 500万円を上限とします。
- ② 1先あたり200万円を上限とします。

以上

【贈呈式の様子：受賞企業の代表者とリエゾン－Ⅰ 支援機関との記念撮影】



<本件に関するお問合わせ先>

岩手銀行法人戦略部 川村 TEL：019-624-8742
北日本銀行営業統括部 中村 TEL：019-626-6533

第18回「リエゾン－I 研究開発事業化育成資金」贈呈先一覧
(2021年2月22日贈呈)

○ 株式会社 重次郎

代表者：代表取締役 中屋敷 敏晃

住所：岩手県岩手郡雫石町上野新里5-4

事業計画名：飼料用大豆を用いた特色ある牛肉生産

共同研究者：農研機構東北農業研究センター

肉用牛生産グループ長 柴 伸弥 上級研究員 嶺野 英子

計画の要約：イネ科牧草を「被覆作物（リビングマルチ）」として用いて雑草を抑制することによって、無農薬でタンパク含量の高い飼料用大豆を栽培し、これまで輸入に頼ってきたタンパク源飼料の国産化を可能にする。これをジャージー種などの今まで肥育牛としては利用されてこなかった牛に給与し、得られた牛肉の特性をあきらかにすることで差別化を図り、雫石の自然の恵みから生産される牛肉としての「付加価値」を高めて販売を促進する。

贈呈金額：200万円

○ 株式会社 宮古マランツ

代表者：代表取締役社長 長崎 一幸

住所：岩手県宮古市津軽石第19地割18番地

事業計画名：緊急告知防災ラジオに連動して動く難視聴地区対応型防災システム・高齢者・障がい者情報サポートに関する開発研究

共同研究者：国立大学法人 岩手大学 理工学部

システム創成工学科 電気電子通信コース 准教授 大坊 真洋

計画の要約：本計画では、2018年から宮古市でも運用が開始された防災ラジオに連動して照明機器の点滅やテレビの自動起動等、様々な家電を自動で動かすことができます。自治体からの緊急情報の発表を素早く住民に伝え、迅速な初期行動につながる機器開発を行い防災対策の強化に寄与します。また本研究開発は、さんりく基金の助成も受け進めております。

贈呈金額：150万円

○ アイエスエス 株式会社

代表者：代表取締役社長 鎌田 智也

住所：岩手県滝沢市菓子95-2 スゴテックビル2F

事業計画名：小規模作業所に向けた農産物の自動仕分け搬送システムの開発

共同研究者：地方独立行政法人 岩手県工業技術センター

電子情報システム部 I o T・ロボット班 博士 長谷川 辰雄

計画の要約：少子高齢化の進む農産物の生産地において出荷の際に必要な規格表に基づいた農産物の等級選別の作業負荷が年々深刻な課題となっている。当研究は、岩手県が全国生産量1位を誇る「りんどう」や高級ブランドの地位を確立しつつある西和賀町の「西ワラビ」を対象に、小規模作業所に導入可能なAI（人工知能）技術を活用した農産品の規格等級を自動的に判定する等級選別装置を研究開発するものである。

贈呈金額：150万円

○ 吉川化成 株式会社

代表者：代表取締役社長 吉川 秀朗

住所：岩手県奥州市江刺岩谷堂字松長根 6 9 - 3

事業計画名：ヘッドアップディスプレイ（HUD）の光源部に使用される高性能フライアイレンズ

共同研究者：国立大学法人 岩手大学 理工学部

システム創成工学科 教授 廣瀬 宏一

計画の要約：今回製品化に至ったのはヘッドアップディスプレイ（HUD）に用いられる「フライアイレンズ」である。従来、耐熱・耐久性の問題から主にガラスが使用されてきた。しかし、その素材の特性から小型軽量化と微細転写加工に限界がきており、さらなる高度化に向けて課題があった。この課題を熱硬化性プラスチックを使用し製品化に成功した。軽量化・耐熱・耐久性において信頼性をクリア。機能面においてもガラス以上の転写性を実現することができ性能面でも高度化に成功した。

贈呈金額：150万円

○ 株式会社 岩手くずまきワイン

代表者：代表取締役社長 鈴木 重男

住所：岩手県岩手郡葛巻町江刈 1 - 9 5 - 5 5

事業計画名：「発酵レーズン」の製品化に向けた条件設定及び大量生産に向けた試験製造

共同研究者：地方独立行政法人 岩手県工業技術センター

食品技術部 主査専門研究員 山下 裕子

計画の要約：乾燥したブドウにワインの発酵技術を活用することで新規の風味を付与した「発酵レーズン」を開発します。製品化に向けて安定生産できる工程を構築し、「食べるワイン」として新たな市場の開拓に取り組みます。岩手県産ブドウの販路の多様化や、ブドウ生産者の収益拡大、雇用の維持や地域の活性化を目指します。

贈呈金額：150万円

○ 株式会社 釜石電機製作所

代表者：代表取締役 佐藤 一彦

住所：岩手県釜石市甲子町第9地割 1 7 1 - 4

事業計画名：溶射式光触媒を搭載した光触媒式空気清浄システムによる空気環境事業の推進

共同研究者：地方独立行政法人 岩手県工業技術センター

素形材プロセス技術部 上席専門研究員 桑嶋 孝幸

計画の要約：溶射技術を活用した光触媒材料の成膜技術の開発に取り組んでいる。当該技術は空気清浄システムへの搭載による空気中の有害物質の光触媒分解を目的としている。今まで畜舎や清酒メーカーの麹室といった過酷な環境における導入を重ねてきた。本事業で光触媒粉末の複合化、及び装置構造の最適化によって更なる性能向上を図る。現在のコロナ禍における安心・安全な生活に寄与すべくあらたな空気清浄機の製品化を並行して進めていく。

贈呈金額：150万円

○ 株式会社 アサヒテクノ

代表者：代表取締役 高橋 茂吉

住所：岩手県北上市和賀町岩崎新田 5 地割 1 6 番 8 1

事業計画名：空洞化現象（CVT）効果を用いた真空乾燥装置の開発

共同研究者：岩手県林業技術センター 上席専門研究員 谷内 博規

計画の要約：有機物の中でも一番困難と言われた木材の乾燥が t=1~3 日位で、目標の 15% までの乾燥が今実用化の目処が付き、最終の商品化の実証実験を行う。また、この乾燥技術は空洞化現象の爆縮がより効果的であることが判明して、特許を取得し世界で初めての工法で食品加工、汚泥処理、工業用材料等、多方面での応用が期待できる。

贈呈金額：100万円

○ 株式会社 岩手エッグデリカ

代表者：代表取締役 田村 昌則

住所：岩手県八幡平市平笠第2地割6番地8

事業計画名：AIセンシングによる非接触・非侵襲な卵の品質自動判定システムに関する研究開発

共同研究者：国立大学法人 岩手大学 理工学部

システム創成工学科 知能・メディア情報コース 准教授 明石 卓也

計画の要約：卵殻表面のひびや汚れなど単純な傷を判別する製品はすでに存在する。しかし性能不足のため弊社では原料卵の入荷時、加工後、包装時に、検査員が複数の外観項目を目視で全数検査している。本研究では鶏卵加工向けの厳しい基準で大量・高速に判定するAI技術活用の外観検査システムを開発する。既製品より優れたAI検査により検査スピード200%、検査経費の節減（最大年間1億円）、商品化率3%向上、食品ロス低減3%を目指す。

贈呈金額：100万円

以上